

青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	国際政治経済学
専攻	国際政治学
課程	修士
入試種別	一般入試（秋）
試験科目	専門科目
科目詳細	政治学(国際政治学を含む)
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ 具体的な出題意図 ・ 解答のポイント ・ 略解

本研究科では、筆記試験を通じて、受験生が大学院で学ぶさいの基盤となる国際政治学の知識を習得し、そうした知識を活かす論理的思考力・判断力・表現力を持っているかどうかを評価している。より具体的には、国際政治学における基礎概念や理論をしっかりと理解しているか、そうした概念や理論などをもとに具体的な事象をとらえることができるか、概念や理論および具体的事象や政策について批判的・論理的に評価する能力があるか、そして以上の事項を明示するための表現力を持っているか、などを判断している。以下に、個々の問題に対する解答のポイントを示す。

問I

(1)

- ・ 集団的自衛権の概念が正確に説明されている。
- ・ 集団的自衛権の意義について、具体例を挙げながら的確に説明されている。
- ・ 集団的自衛権の課題について、具体例を挙げながら、何が、どのように課題となっているのかが的確に説明されている。
- ・ 論理的に記述されている。
- ・ 適切な構成で記述されている。

(2)

- ・ NGOの概念が的確に説明されている。
- ・ NGOがその成立に一定の役割を果たした多数国間条約の具体例が挙げられている。
- ・ 具体例として挙げた多数国間条約に関して、NGOがその成立において果たした役割が明確に説明されており、かつ当該多数国間条約が現在直面している課題について論じられている。
- ・ 論理的に記述されている。
- ・ 適切な構成で記述されている。

問II

(1)

- ・ 国際政治における「アイデンティティ」について、それをどのように理解するのが概念的に説明されている。必要に応じて、関連する著作・著者名や理論的立場に言及してあるとなおよい。
- ・ 国際政治においてアイデンティティが何らかの役割や影響を及ぼすのか、あるいは及ぼさないのかが論じられている。特定の理論的な立場を援用していても良い。
- ・ アイデンティティの役割や影響の有無、またはその程度について、具体的な事例を用いて説明されている。
- ・ 論理的に記述されている。
- ・ 適切な構成で記述されている。

(2)

- ・ 設問に即して、2つ以上の外交戦術（例：交渉、援助政策、同盟の締結、など）が挙げられ、それぞれについて、どのような条件下で効果を発揮しやすいのかが論じられている。必要に応じて、特定の理論的立場を示してもよい。
- ・ 各外交戦術の効果の有無や程度について、具体的な事例を挙げ、その事例の展開に基づいて論じることができている。
- ・ ある外交戦術が効果を持たない、あるいは限定的にしか機能しないと考える場合には、その理由が明示されている。さらに、そのことを示す具体的な事例が記述されていれば、より望ましい。
- ・ 論理的に記述されている。
- ・ 適切な構成で記述されている。

青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	国際政治経済学
専攻	国際政治学
課程	修士
入試種別	一般入試（春）
試験科目	専門科目
科目詳細	政治学(国際政治学を含む)
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ 具体的な出題意図 ・ 解答のポイント ・ 略解

本研究科では、筆記試験を通じて、受験生が大学院で学ぶさいの基盤となる国際政治学の知識を習得し、そうした知識を活かす論理的思考力・判断力・表現力を持っているかどうかを評価している。より具体的には、国際政治学における基礎概念や理論をしっかりと理解しているか、そうした概念や理論などをもとに具体的な事象をとらえることができるか、概念や理論および具体的な事象や政策について批判的・論理的に評価する能力があるか、そして以上の事項を明示するための表現力を持っているか、などを判断している。以下に、個々の問題に対する解答のポイントを示す。

問I

(1)

- ・「国際秩序」および「同盟」の概念が的確に説明されている。
- ・現在に至るまでに観察された国際秩序およびそれに関連する同盟について、具体的な事例（複数可）が正確に示されている。
- ・同盟が国際秩序の維持に果たす役割について、上記の具体例を用いながら論理的に説明されている。
- ・論理的に記述されている。
- ・適切な構成で記述されている。

(2)

- ・「覇権戦争」の概念が的確に説明されている。その際、「覇権」が正確にとらえられていることが明らかである。
- ・米中の「覇権戦争」が近年懸念される状況にある背景が、適切かつ具体的に説明されている。米中関係の歴史的経緯に触れられていればなおよいが、簡潔でも前述の点が的確に明示されていれば十分。
- ・米中間の覇権戦争の可能性に関して、国際関係理論の立場から（あるいは何らかの論理的立場から）解答者の自説が展開されている。（解答者が用いた理論または論理が正確に提示され、適切に米中の事例に適用されているか、および自説が論理的に導かれているかを重視。）
- ・論理的に記述されている。
- ・適切な構成で記述されている。

問II

(1)

- ・なぜ民主国家は権威主義国家よりも戦争に関わることが少ないのかが、論理的に説明されている。（その際、民主国家1国内のメカニズムに着目する説明、および2国間のメカニズムに着目する説明の両方がある。）
- ・民主国家が権威主義国家よりも戦争に関わりにくい、という主張が、実際に国際政治上確認できるのかどうかについて、具体的な事例または統計上確認されているデータなどに言及しつつ説明されている。
- ・上記2項目に関する記述に基づいて、民主国家が権威主義国家よりも戦争に関わりにくいという主張に関する自説が論理的に展開されている。
- ・論理的に記述されている。
- ・適切な構成で記述されている。

(2)

- ・内戦の概念が的確に説明されている。その際、国家間戦争との対比が明確にされていることが望ましい。
- ・内戦が勃発する原因について2つ以上の要因を指摘し、それぞれがいかに内戦を誘発するのかを論理的に説明している。その際、各要因に関する理論的背景や、具体的な事例などへの言及があればなおよい。
- ・内戦を停止に導く要因（内在要因と環境要因を含む）について、その要因がどのように内戦終結を促すのかを論理的に説明している。その際、各要因に関する理論的背景や、具体的な事例などへの言及があればなおよい。
- ・論理的に記述されている。
- ・適切な構成で記述されている。